

台風20号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H30-6
平成30年8月22日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

現在、強い台風第20号は、父島の南南西約430kmを時速30キロの速さで北西へ進んでいます。

今後、石川県には24日（金）頃に最接近する進路予想となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

〈要旨〉

- 1 大雨に備えて、露地ほ場を中心に排水路を点検・連結し、排水対策を講ずる。
- 2 水稲では、収穫期となっているほ場は、できるだけ刈り取り作業を進める。また、倒伏した稲は、穂発芽等による品質低下を防ぐため、ほ場の排水に努める。
- 3 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを下ろし、破損箇所を速やかに補修するとともに、ビニールのバタつきを防ぐため、ハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を実施する。
- 4 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- 5 棚栽培の果樹では、風圧による棚の上下動によって落果が起きるので、支柱・アンカー等で棚面を固定する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水稲

現在、早生は収穫期、中生は登熟後期～収穫直前、晩生は登熟中期～後期となっている。（8月22日現在）

（1）事前対策

- ① 収穫期となっているほ場では、できるだけ刈り取り作業を進める。
- ② まだ成熟期に至っていない晩生、直播、晩植では、フェーン等の強風が予想される場合、事前にはほ場に入水し、水分ストレスや高温による稲体の消耗を防ぐ。

(2) 事後対策

- ① 倒伏した稲では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、ほ場の排水に努めるとともに刈り遅れとならないように適期収穫に努める。
- ② 倒伏や穂発芽等により米の品質低下が明らかなほ場では、被害を受けていないほ場と分別して収穫・乾燥を行う。
- ③ やけ米防止のため、収穫した生籾はすみやかに乾燥機に張り込み、通風を行う。生籾を4時間以上放置することは避ける。特に高水分籾では注意する。

2 大豆

現在、子実肥大期となっており、強風や豪雨による茎葉及び莢の損傷、根の活力低下に注意が必要な時期である。(8月22日現在)

(1) 事前対策

- ① 浸冠水の影響が大きい時期であるため、降雨が予想される場合は、排水路の連結やつまりを確認し速やかな排水に努める。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、ほ場の長時間の浸冠水による根腐れを防ぐため、速やかな排水に努める。
- ② 降雨を伴った強風に遭遇した場合は、莢腐敗の発生が懸念されるため、薬剤防除を実施する。

3 野菜・花き

(1) 事前対策

① 施設野菜・花き(トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等)

ア ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内の浸水に備える。

イ 施設内に風雨が吹き込まないように、サイドのビニールを下ろし、破損箇所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を早急を実施する。

ウ 換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムがばたつかないようにする。

エ 高温期の台風であり、日中接近した場合は施設の密閉により過度の気温上昇が起こるので、風下側は5~10 cm程度の幅で巻き上げ換気する。密閉する場合は、台風通過後ただちに換気を行う。

オ 施設内が高温になると、葉や生長点が焼ける恐れがあるため、頭上から噴霧散水して作物体温やハウス内の温度を下げる。

② 露地野菜・花き(ねぎ、きく等)

ア ほ場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。

イ なすや豆類などの棚仕立ての品目では、筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲の杭等と棚を固定し、棚全体を固定・補強する。

ウ 砂丘地のだいこん、にんじん、かんしょ等では、飛砂防止のために防風ネットの設置や寒冷紗のべたがけをする。降雨がない場合は、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。

エ なすやきゅうりなどの果菜類では、収穫可能なものは早急に収穫する。

オ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウズバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

カ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

(2) 事後対策

- ① 豪雨によりほ場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等で強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による防除を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎が曲がり、元に戻らなくなるので注意する。

4 果樹

(1) 事前対策

- ① 収穫期に入っているもも、なし、ぶどう等では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ 棚栽培での果実の落果

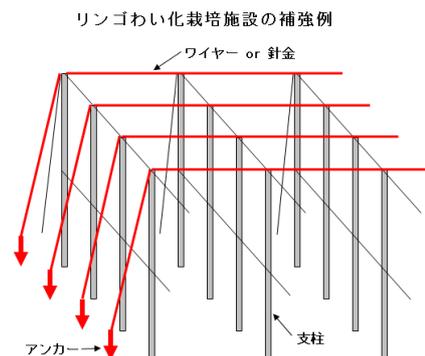
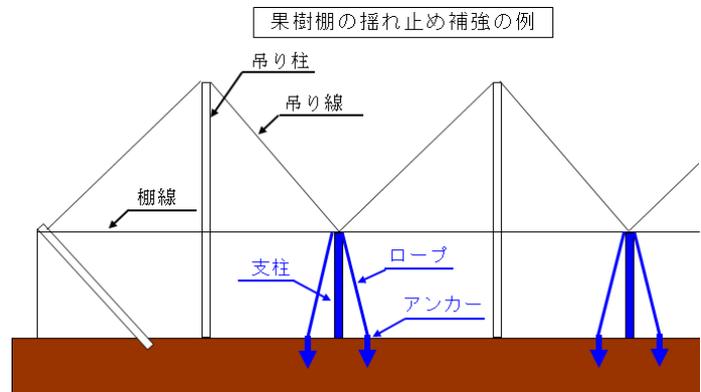
のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。

- ④ なし、キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。

⑤ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。

- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかりと固定する。

⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風弱いいため、支柱を添えて必ず補強する。



- また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
 - ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。

（２）事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産

（１）事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

（２）事後対策

- ① 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

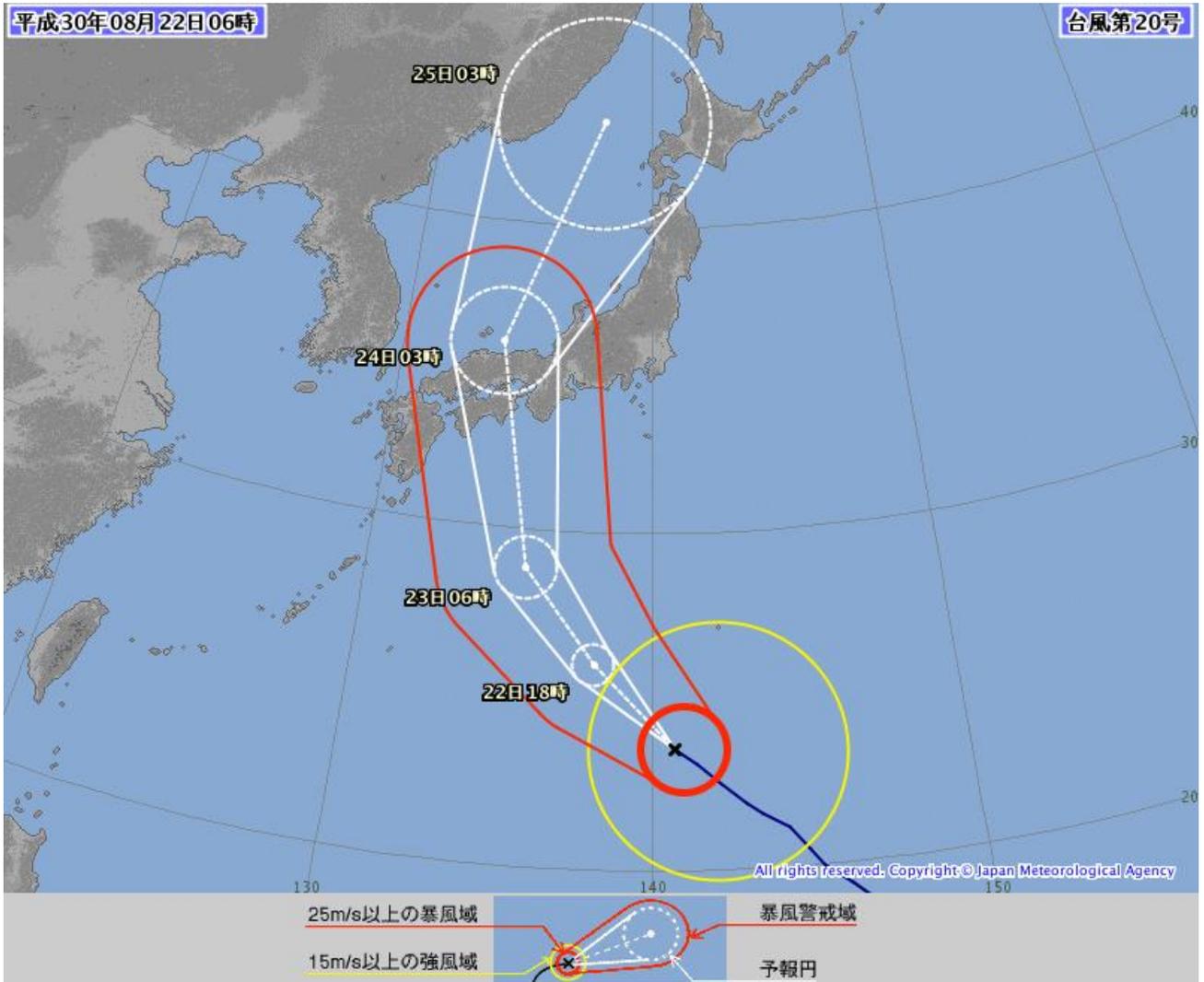
（１）事前対策

- ① 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水対策を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。
- ③ 飼料用とうもろこしについては、天候に応じ糊熟期以降であれば一部収穫の前倒しを検討する。

（２）事後対策

- ① 倒伏したソルガムは、速やかに収穫し品質の低下を防ぐ。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せずに登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。
- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

Ⅲ 気象の概況 台風の進路予想



〈22日06時の実況〉	
大きさ	-
強さ	強い
存在地域	父島の南南西約430km
中心位置	北緯 23度30分(23.5度) 東経 140度40分(140.7度)
進行方向、速さ	北西 30km/h(16kt)
中心気圧	965hPa
中心付近の最大風速	40m/s(75kt)
最大瞬間風速	55m/s(105kt)
25m/s以上の暴風域	東側 170km(90NM) 西側 110km(60NM)
15m/s以上の強風域	東側 560km(300NM) 西側 280km(150NM)

